

平成 29 年度事業報告

1 財団の概況

(1) 設立趣意書

熊本県が建設する熊本県立劇場は、高まり行く県民の文化的欲求に対応するとともに、地域文化開発の拠点となって、活力ある郷土の実現をめざすこととなるのであるが、その管理運営が極めて重要な課題となる。

現下の厳しい社会情勢にかんがみ、県立劇場の管理運営にあたっては、行政負担を抑制すると同時に行政サービスを低下させることなく、効率的かつ適正な執行体制を確保する必要がある。

このことから、県民の福祉及び文化の向上を図るための諸事業を実施し、県立劇場施設の管理委託を受けて、県民生活向上のためのサービスを提供する財団法人を設立のうえ、県立劇場建設の所期の目的を達成するため、民間のエネルギー及び感覚をもって、より効果的運営を図ろうとするものである。

(財団法人熊本県立劇場設立趣意書より)

(2) 法人の目的及び事業

① 目的（定款第 3 条）

この法人は、活力ある郷土の実現をめざし、音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術活動を中心とした芸術文化及び地域文化の振興のための事業並びに優れた舞台芸術を広く提供する事業を行い、県民の福祉及び文化の向上に寄与することを目的とする。

② 事業（定款第 4 条）

- ・舞台芸術に関する公演を自主制作、又は、主催し、広く提供する事業
- ・個人及び団体への助言並びに人材の育成に関する事業
- ・団体への助成に関する事業
- ・調査、研究、情報収集に関する事業
- ・普及・啓発のための広報に関する事業
- ・公立文化施設の管理及び貸与に関する事業
- ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 沿革

昭和 57 年	6 月 11 日	財団法人熊本県立劇場の設立（民法第 34 条法人）
昭和 57 年	12 月 4 日	熊本県立劇場落成
昭和 59 年	3 月 5 日	財団法人熊本県立劇場文化事業委員会の発足
昭和 63 年	7 月 1 日	鈴木健二館長就任
昭和 63 年	8 月 20 日	文化振興基金の開設
平成 元年	3 月 30 日	施設整備基金の開設

平成 6 年	3 月 31 日	自主文化事業調整基金の開設
平成 10 年	7 月 1 日	施設使用料金の改定、施設使用許可取扱要領を整備
平成 11 年	3 月 1 日	財団法人熊本県立劇場評議員会の発足（文化事業委員会の廃止）
平成 11 年	4 月 1 日	川本雄三館長就任
平成 13 年	3 月 31 日	旧文化振興基金の運用終了
平成 14 年	4 月 1 日	自主文化事業調整基金を一新し文化振興基金に改め運用開始
平成 17 年	7 月 1 日	熊本県立劇場条例及び条例施行規則改正の公布
平成 18 年	4 月 1 日	第 1 期指定管理者運営開始（改正条例の施行） 文化振興基金及び施設整備基金を廃止
平成 18 年	6 月 1 日	小堀富夫理事長就任
平成 18 年	6 月 23 日	財団法人熊本県立劇場自主文化事業委員会の発足
平成 18 年	7 月 1 日	葉山完治館長就任
平成 21 年	3 月 31 日	第 1 期指定管理者業務終了
平成 21 年	4 月 1 日	第 2 期指定管理者運営開始
平成 24 年	3 月 31 日	第 2 期指定管理者業務終了
平成 24 年	4 月 1 日	公益財団法人へ移行登記、第 3 期指定管理者運営開始
平成 26 年	4 月 1 日	熊本県立劇場条例一部改正（改正条例の施行） 熊本県立劇場運営方針の施行
平成 27 年	4 月 1 日	松本辰明理事長就任
平成 27 年	6 月 19 日	世良喜久子理事長就任
平成 28 年	1 月 1 日	姜尚中理事長兼館長就任
平成 28 年	4 月 14 日	熊本地震発生により 8 月 24 日まで休館
平成 28 年	12 月 19 日	熊本地震を受けて第 3 期指定管理期間の 2 年延長
平成 29 年	8 月 28 日	熊本市民会館の指定管理業務の運営に係る包括協定書の締結
平成 30 年	2 月 9 日	熊本市民会館文化企画事業委託業務契約の締結

(4) 施設の概要

施設	客席数	舞台	主な設備
コンサートホール	1,810 席 (うち車椅子席 8 席)	間口 24.0 ㍎ 奥行 14.0 ㍎	オーケストラ雛壇迫り 3 段 ピアノ 4 台、チェンバロ 1 台
演劇ホール	1,172 席 (うち車椅子席 11 席)	間口 18.0 ㍎ 奥行 20.5 ㍎	大迫り、本迫り、オーケストラピット、 仮設本花道、ピアノ 1 台
大会議室	380 人	間口 7.2 ㍎ 奥行 3.6 ㍎	スクリーン、机 54 台、 椅子 382 脚、ピアノ 1 台
和室	—	—	畳 18 畳、板間 18 畳、 所作台 12 枚 他
音楽リハーサル室	—	—	308 ㎡、ピアノ 2 台 他
演劇リハーサル室	—	—	253 ㎡、ピアノ 1 台 所作台 12 枚 他
練習室（第 1～第 3）	—	—	215 ㎡、162 ㎡、156 ㎡ 各室にピアノ 他

2 事業の実施状況

当財団は、熊本県立劇場開館時以来、県の指導の下、一貫して劇場の管理運営を担いながら、熊本県の文化芸術の継承、創造、発信をとおして、県内文化ホールの中核的役割使命を果たしてきたところです。

近年、国においては「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」が制定され、さらに「文化芸術基本法」が改正されるなど、時代の変化とともに新たな劇場運営が求められ、加えて本県で発生した「平成 28 年熊本地震」は、改めて県立劇場の存在が問われる機会となりました。県では「県立劇場のあり方検討委員会」が開催され、こころの復興、共生の劇場といった新たな役割と県内文化施設の拠点としての課題が提起され、その対応が求められています。

平成 29 年度は、平成 28 年度末終期の熊本県立劇場指定管理者第 3 期が「平成 28 年熊本地震」の影響を受けて指定管理期間の 2 年延期が決定されたことに伴い、施設の災害復旧工事(工期 H29. 2. 1～H30. 3. 16)と、演劇ホール舞台吊物機構等改修工事(工期 H30. 1. 29～8. 16)を実施しながら開館し、指定管理業務を継続してきました。

一方で、被災した方々の「こころの復興」に資するため、これまで培ってきた人脈やネットワークを活かして、被災地や学校等に芸術家を派遣する「アートキャラバンくまもと」事業に継続して取り組むとともに、平成 30 年度からの熊本市市民会館との業務連携について、指定管理者である熊本市社会教育事業団と包括協定を締結し事業企画の準備を行ってきました。

また、平成 30 年 3 月には県内の文化施設の被害状況をまとめた記録誌『平成 28 年熊本地震記録誌』を刊行しました。これは、公益社団法人全国公立文化施設協会の加盟団体（全国約 1,300 館の公共ホールが加盟）から寄せられた寄附金をもとに、今後大地震が発生した際の取組みの参考となるよう、熊本県公立文化施設協議会（加盟 34 館、熊本県立劇場は会長館を務める）と共同して編纂しました。

事務局体制については、組織体制を 3 課体制から 4 グループ体制に改編し、平成 30 年度からの新たな業務に対応するため、契約職員から正規職員への登用を行うなど、業務の質と量の変化に対して、業務の見直しを行いながら機動的に対応できる事務局体制の構築を図りました。

そのほか日常の運営については、下記の事項に留意して管理運営業務を行いました。

- ① 公平な取り扱い
- ② 安全・清潔・快適な施設及び設備の提供
- ③ 利用者増加、利便性向上
- ④ 文化・教育・福祉の向上
- ⑤ 舞台芸術振興の中心的役割
- ⑥ 県民等とのパートナーシップとその意見の反映
- ⑦ 経費の節減
- ⑧ 公の施設としての機能・役割

(1) 管理運営事業 (公2・収1)

① 概況

管理運営にあたっては、業務の効率的な執行と、利用者が安全・清潔・快適で、親しまれ満足できる施設となれるよう留意しながら、管理運営業務を行いました。

・復旧工事への対応

「平成28年熊本地震」とその後の度重なる余震により、最も深刻な被害となった県立劇場の外壁コンクリート板の本格復旧工事を、熊本市民会館との同時閉館を避けるため、平成29年2月1日から開館しながら施工することとなり、約13ヶ月間に渡る復旧工事がこの3月に完了しました。

その間、工事音や振動が発生する中での仕込みやリハーサル、大型クレーンやトラック等の搬入出に伴う駐車スペースの減少など、工事の影響について出演者や利用者並びに近隣住民の方々にご理解とご協力をお願いしてきました。

・危機管理への対応

委託業者も含めた職員全員で地震・消防・テロ対策訓練を実施し、危機管理マニュアルの改訂や開演前アナウンスなど、様々な事態に対しても迅速かつ的確に対応ができるよう、主催者との連携体制を整えるとともに、定期的に危機管理研修を実施しました。

・施設設備の維持管理

熊本県の保全計画に基づき演劇ホールの舞台機構設備の改修工事を、平成30年1月29日から平成30年8月16日まで施工しています。

また、平成30年度に実施される予定の、両ホールの舞台照明（スポットライト等）と、絞り緞帳の更新に係る調査業務に取り組んだほか、両ホール及び大会議室の監視カメラの更新や、演劇ホールホワイエの防災垂れ壁の改修が県予算で施工されました。

なお、ホール内における公演環境の向上対策として、県内のホールでは初めて「携帯電話抑止装置」を導入しました。

・満車時の混雑解消

「平成28年熊本地震」による被害箇所の本格復旧工事を行うにあたり、駐車場の入庫台数が490台から約350台に減少しました。

このため、催事利用車両による満車が想定される場合は、混雑回避のため、来館者への周知はもちろんのこと、主催関係車両の利用制限、近隣駐車場手配や誘導員の配置を行い混雑解消に努めました。

平成29年度は、有料駐車場満車時の職員による誘導整理は128日間のべ169回（平成28年度は、95日間のべ107回）となりました。

また、入出庫時の混雑解消のための正門付近の入出庫整理も同様に55回実施して混雑回避に努めました。（平成28年度実績33回）

特に、ゆめタウン大江とは満車に伴う周辺道路混雑について情報共有を行い、混雑が予想される場合は、ホールの本番時間に合わせて入出庫整理を行うなど協力体制を

構築しています。

② 施設の利用状況

各施設の利用申請の受付及び施設使用料の収納事務に加えて、利用者が安全で快適に施設を利用できるよう施設の維持管理及び運営に努めました。

平成 29 年度の利用状況は、「平成 28 年熊本地震」により被害を受けた外壁コンクリート板の本格復旧工事と同時並行による開館となりました。復旧工事の工事日を確保するため、両ホールの新規受付を停止したほか、大会議室は夜間のみの貸出し、練習室等は工事音等が発生することを了承していただくことを条件として貸出しを行いました。

(施設利用率・入場者数の見込と実績)

項目	見込	実績	差異
コンサートホール利用率	75.0%	71.3%	▲3.7ポイント
演劇ホール利用率	84.9%	76.4%	▲8.5ポイント
入場者数	321,000人	357,887人	36,887人

《利用率》

コンサートホールの利用率は、見込の 75.0%に対して 71.3%、演劇ホールは見込の 84.9%に対して 76.4%となりました。これは、復旧工事を同時並行するにあたり、工事施工日を確保するために、新規の利用を制限したことによるものです。

《入場者数》

年間入場者数は、震災復旧工事の影響もあり 35 万 7 千人となりました（例年の 7 割程度）。

平成29年度施設の利用状況

1 施設別利用状況及び許可状況

(単位:日)

施設名		平成29年度	平成27年度	平成27年度同期比
コンサートホール	利用可能日数	254	296	▲ 42 (85.8%)
	利用日数	181	217	▲ 36 (83.4%)
	利用率(%)	71.3%	73.3%	▲ 2.0ポイント (97.2%)
	入場者数(人)	195,304	218,389	▲ 23,085 (89.4%)
演劇ホール	利用可能日数	242	285	▲ 43 (84.9%)
	利用日数	185	225	▲ 40 (82.2%)
	利用率(%)	76.4%	78.9%	▲ 2.5ポイント (96.8%)
	入場者数(人)	125,888	144,600	▲ 18,712 (87.1%)
大会議室	利用可能日数	325	312	▲ 13 (104.2%)
	利用日数	90	226	▲ 136 (39.8%)
	利用率(%)	27.7%	72.4%	▲ 44.7ポイント (38.2%)
	入場者数(人)	11,670	50,191	▲ 38,521 (23.3%)
和室	利用可能日数	329	334	▲ 5 (98.5%)
	利用日数	71	125	▲ 54 (56.8%)
	利用率(%)	21.6%	37.4%	▲ 15.8ポイント (57.7%)
	入場者数(人)	946	2,289	▲ 1,343 (41.3%)
音楽リハーサル室	利用可能日数	327	332	▲ 5 (98.5%)
	利用日数	228	242	▲ 14 (94.2%)
	利用率(%)	69.7%	72.9%	▲ 3.2ポイント (95.7%)
	入場者数(人)	7,555	21,530	▲ 13,975 (35.1%)
演劇リハーサル室	利用可能日数	329	332	▲ 3 (99.1%)
	利用日数	173	184	▲ 11 (94.0%)
	利用率(%)	52.6%	55.4%	▲ 2.8ポイント (94.9%)
	入場者数(人)	4,319	11,776	▲ 7,457 (36.7%)
第1練習室	利用可能日数	328	336	▲ 8 (97.6%)
	利用日数	144	179	▲ 35 (80.4%)
	利用率(%)	43.9%	53.3%	▲ 9.4ポイント (82.4%)
	入場者数(人)	3,341	13,373	▲ 10,032 (25.0%)
第2練習室	利用可能日数	330	334	▲ 4 (98.8%)
	利用日数	158	245	▲ 87 (64.5%)
	利用率(%)	47.9%	73.4%	▲ 25.5ポイント (65.3%)
	入場者数(人)	3,563	11,151	▲ 7,588 (32.0%)
第3練習室	利用可能日数	330	339	▲ 9 (97.3%)
	利用日数	203	283	▲ 80 (71.7%)
	利用率(%)	61.5%	83.5%	▲ 22.0ポイント (73.7%)
	入場者数(人)	4,528	13,721	▲ 9,193 (33.0%)
他の入場者数	入場者数(人)	773	3,605	▲ 2,832 (21.4%)
入場者数合計		357,887	490,625	▲ 132,738 (72.9%)
使用許可件数(団体数)		724	1,072	▲ 348 (67.5%)

* 利用率は小数点以下2桁を四捨五入

※前年度(28年度)は震災の影響があるため、通年ベースである平成27年度と比較

平成29年度のホール・大会議室の施設利用状況は、次のとおりです。

【コンサートホール】

利用可能日数 254 日に対して利用実績 181 日、入場者数 19 万 5 千人あまり、利用率 71.3%で、平成27年度と比較して利用日数は36日減、利用率は2.0ポイントの減となっています。

利用形態別では、音楽会・歌謡ショー123日(対平成27年度比25日減)、大会・集会・式典が12日(同2日減)、研修・講演・発表会が41日(同2日増)となっています。

区分帯別利用では、午前 159 日（対平成 27 年度比 26 日減）、午後 166 日（同 25 日減）、夜間 106 日（同 12 日減）となっています。

復旧工事を同時並行するにあたり、工事施工日を確保する必要があったこと、新規の利用を制限したことにより、利用日数及び利用率は減少となりました。

【演劇ホール】

利用可能日数 242 日に対して利用実績 185 日、入場者数 12 万 5 千人あまり、利用率 76.4%で、平成 27 年度と比較して利用日数は 43 日減、利用率は 2.5 ポイント減となっています。

利用形態別では、演劇 28 日（対平成 27 年度比 1 日増）、邦楽・邦舞が 12 日（同 7 日増）、洋舞が 37 日（同 5 日増）、古典芸能が 16 日（同 5 日増）、大会・集会・式典が 12 日（同 3 日減）、研修・講演・発表会が 28 日（同 36 日減）、歌謡・音楽会が 43 日（同 16 日減）、映写会その他が合せて 9 日（同 3 日減）となっています。

区分帯別利用では、午前 166 日（対平成 27 年度比 35 日減）、午後 173 日（同 23 日減）、夜間 136 日（同 6 日増）となっています。

復旧工事を同時並行するにあたり、工事施工日を確保する必要があったこと、新規の利用を制限したことにより、利用日数及び利用率は減少となりました。

【大会議室】

利用可能日数 325 日に対して利用実績 90 日、入場者数は 1 万 1 千人あまり、利用率 27.7%で、平成 27 年度と比較して利用日数は 136 日減、利用率は 44.7 ポイント減となっています。

利用形態別では、大会・集会・式典が 11 日（対平成 27 年度比 3 日増）、研修・講演・発表会が 33 日（同 126 日減）、展示会が 0 日（同 4 日減）、歌謡・音楽会が 35 日（同 5 日減）、その他が 11 日（同 4 日減）となっています。

区分帯別では、午前 53 日（対平成 27 年度比 58 日減）、午後 70 日（同 130 日減）、夜間 54 日（同 23 日減）となっています。

復旧工事を同時並行するにあたり、工事施工日を確保する必要があったこと、利用頻度の高い午前・午後区分の貸出しを停止したことにより、利用日数及び利用率は減少となりました。

2 ホール別・形態別利用状況

(単位:日)

施設名	形態別	平成29年度	平成27年度同期	平成27年度同期比
コンサートホール	利用可能日数	254	296	▲ 42 (85.8%)
	音楽会	123	148	▲ 25 (83.1%)
	歌謡ショー	0	0	0 (-)
	大会・集会・式典	12	14	▲ 2 (85.7%)
	研修・講演・発表会	41	39	2 (105.1%)
	その他	5	16	▲ 11 (31.3%)
	利用日数計	181	217	▲ 36 (83.4%)
利用率(%)	71.3%	73.3%	▲ 2.0ポイント (97.2%)	
演劇ホール	利用可能日数	242	285	▲ 43 (84.9%)
	演劇	28	27	1 (103.7%)
	邦舞・邦楽	12	5	7 (240.0%)
	洋舞	37	32	5 (115.6%)
	古典芸能等	16	11	5 (145.5%)
	大会・集会・式典	12	15	▲ 3 (80.0%)
	研修・講演・発表会	28	64	▲ 36 (43.8%)
	歌謡・音楽会	43	59	▲ 16 (72.9%)
	映写会	0	0	0 (-)
	その他	9	12	▲ 3 (75.0%)
	利用日数計	185	225	▲ 40 (82.2%)
	利用率(%)	76.4%	78.9%	▲ 2.5ポイント (96.8%)
大会議室	利用可能日数	325	312	13 (104.2%)
	大会・集会・式典	11	8	3 (137.5%)
	研修・講演・発表会	33	159	▲ 126 (20.8%)
	映写会	0	0	0 (-)
	展示会	0	4	▲ 4 (-)
	歌謡・音楽会	35	40	▲ 5 (87.5%)
	その他	11	15	▲ 4 (73.3%)
	利用日数計	90	226	▲ 136 (39.8%)
利用率(%)	27.7%	72.4%	▲44.7ポイント (38.2%)	

3 区分帯別利用状況

(単位:回)

施設名		平成29年度	平成27年度同期	平成27年度同期比
コンサートホール	午前	159	185	▲ 26 85.9%
	午後	166	191	▲ 25 86.9%
	夜間	106	118	▲ 12 89.8%
演劇ホール	午前	166	201	▲ 35 82.6%
	午後	173	196	▲ 23 88.3%
	夜間	136	130	6 104.6%
大会議室	午前	53	111	▲ 58 47.7%
	午後	70	200	▲ 130 35.0%
	夜間	54	77	▲ 23 70.1%
和室	午前	25	56	▲ 31 44.6%
	午後	42	78	▲ 36 53.8%
	夜間	49	71	▲ 22 69.0%
音楽リハーサル室	午前	116	140	▲ 24 82.9%
	午後	128	161	▲ 33 79.5%
	夜間	193	207	▲ 14 93.2%
演劇リハーサル室	午前	98	111	▲ 13 88.3%
	午後	142	157	▲ 15 90.4%
	夜間	140	131	9 106.9%
第1練習室	午前	74	89	▲ 15 83.1%
	午後	97	115	▲ 18 84.3%
	夜間	103	123	▲ 20 83.7%
第2練習室	午前	85	160	▲ 75 53.1%
	午後	83	114	▲ 31 72.8%
	夜間	103	150	▲ 47 68.7%
第3練習室	午前	102	192	▲ 90 53.1%
	午後	97	169	▲ 72 57.4%
	夜間	146	185	▲ 39 78.9%
計	午前	878	1,245	▲ 367 70.5%
	午後	998	1,381	▲ 383 72.3%
	夜間	1,030	1,192	▲ 162 86.4%
	合計	2,906	3,818	▲ 912 76.1%

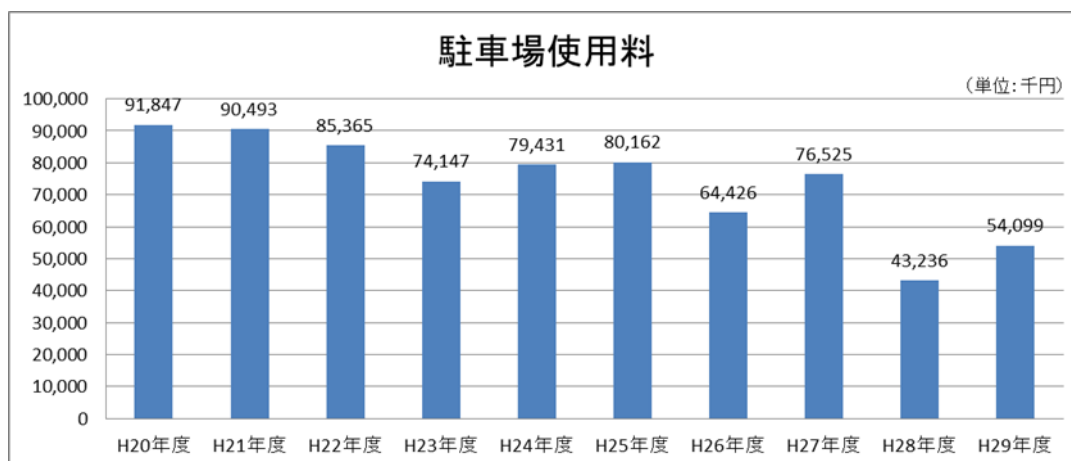
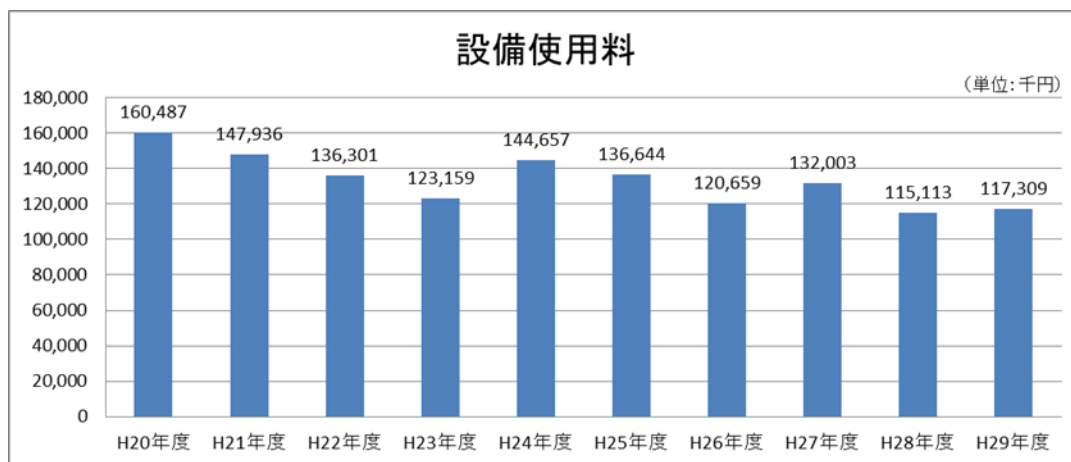
③ 使用料収納の実績

平成 29 年度の施設使用料（設備使用料と駐車場使用料）収入は 171,408,230 円となり、県予算から 5,522 万円ほど上回る結果となりました。これは、復旧工事による貸出停止を見込み、県予算が例年の 5 割程度に減額されたことによるものです。

《使用料収納の状況》

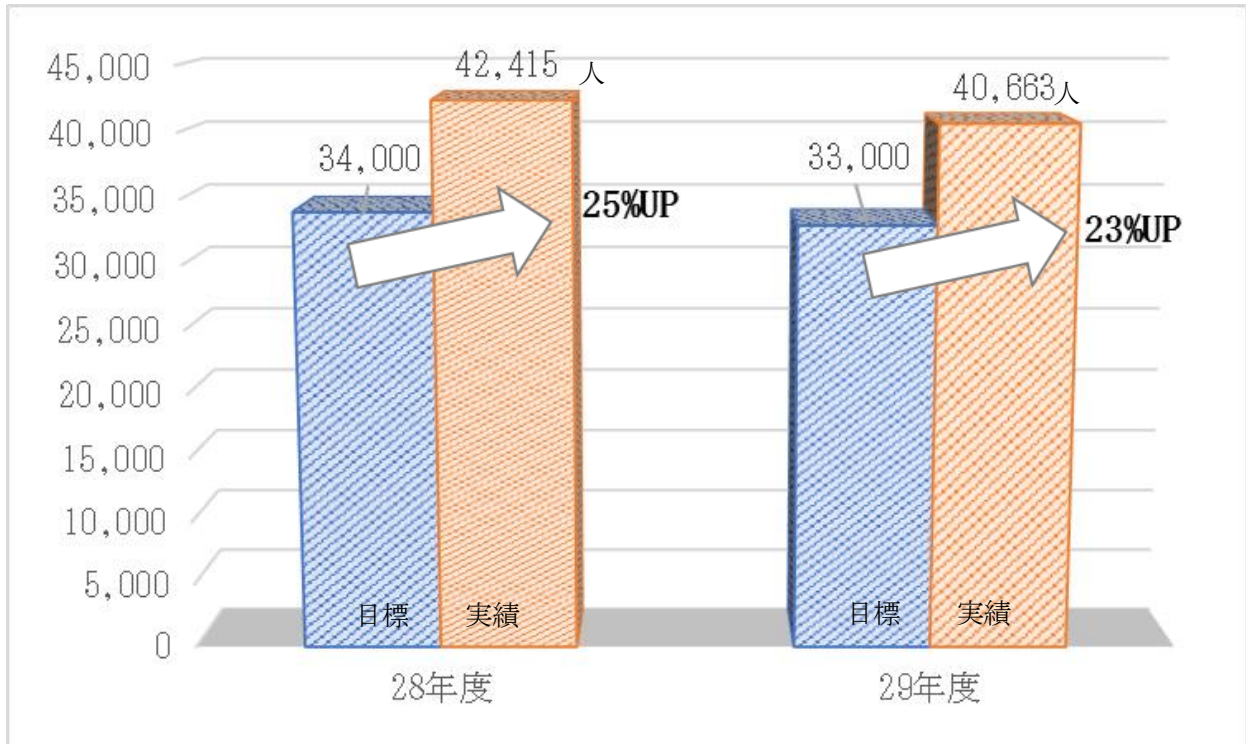
項目		県予算	実績	差異
使用料 収納額	設備使用料	75,479,000 円	117,309,030 円	41,830,030 円
	駐車場使用料	40,704,000 円	54,099,200 円	13,395,200 円

(参考) 施設使用料収納額の年度別比較



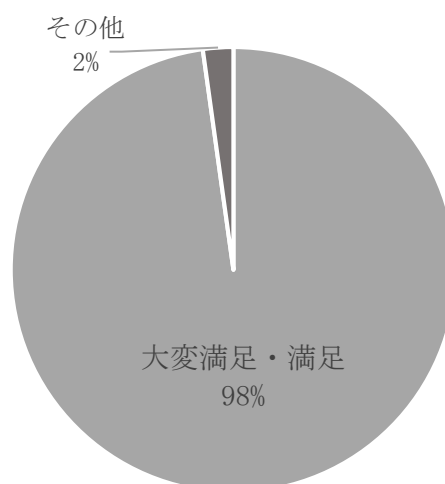
(2) 文化事業

① 文化事業の入場者・参加者数



文化事業の入場者・参加者は、目標数値の33,000人に対し40,663人と目標を大きく上回りました。これは「アートキャラバンくまもと」での観客数が予想を上回ったことなどによるものです。

② 入場者アンケート



入場者アンケートの「公演内容」については、98%の割合で大変満足または満足と回答(10公演平均値)、高い満足度を示しています。

③ 集客

<ul style="list-style-type: none"> ・第59回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る新・オーケストラ (1,810席) ・フィルハーモニア管弦楽団 (1,810席) ・名もなく貧しくもなく美しくもなく (150席) 	〔 完 売 〕
--	----------------

3公演でチケットが完売。また、3年ぶりの熊本公演となった「マリインスキー歌劇場管弦楽団」公演は満席に近い来客数で、観客からも高い評価を得ました。

④ 多様な財源の確保

事業名（公演名）	助成金等	金額 (千円)
<ul style="list-style-type: none"> ・ピノキオ ・第59回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ・KUMAMOTO JAZZ ・マリインスキー歌劇場管弦楽団 	文化庁（公演事業）	16,000
<ul style="list-style-type: none"> ・県劇ゼミ ・地域伝統芸能育成事業 	文化庁（人材養成事業）	1,100
<ul style="list-style-type: none"> ・くまモン音楽祭 ・ネットワーク事業 ・名もなく貧しくもなく美しくもなく ・アウトリーチ事業 	文化庁（普及啓発事業）	4,816
<ul style="list-style-type: none"> ・邦楽地域活性化事業 	（一財）地域創造	450
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のじかんだよ 	企業メセナ協議会	200
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する 芸術表現体験（芸術家派遣） 	文部科学省受託事業	2,889
合 計		25,455

⑤ 公共団体や民間企業等との連携強化

事業名（公演名）	連携先
<ul style="list-style-type: none"> ・くまモン音楽祭 	熊日
<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎国際音楽祭管弦楽団 	TKU、テレビ宮崎、宮崎県立芸術劇場
<ul style="list-style-type: none"> ・東京キャラバン in 熊本 	東京都、アーツカウンシル東京、熊本県、熊本市、熊本市現代美術館
<ul style="list-style-type: none"> ・フィルハーモニア管弦楽団 	鶴屋百貨店

I 芸術文化の創造拠点として取り組む事業

1) 創り育む (詳細は 23 ページ参照)

熊本県立劇場が自ら質の高い舞台を制作するとともに、本県文化創造の活動拠点として県民や文化団体の活動を育成・支援するための事業を実施しました。

オハイエくまもと協力事業

知的障害のある音楽隊の活動が円滑になるよう、音楽療法士の資格を持つ音楽家を講師として派遣し、指導者に対する音楽づくりのアドバイスや音楽隊へのワークショップを実施しました。また、3月18日実施の「とっておきの音楽祭」では、熊本市現代美術館会場のコンサート制作を受け持ち、事前準備から当日運営を行いました。

今後への展望・・・劇場の社会包摂事業の柱のひとつ、「障がいのある人との芸術表現活動」については、今後もオハイエくまもとを中心に様々な関係機関等と連携しながら実施していきます。

2) 広げる (詳細は 25 ページ参照)

本県における中核的な拠点ホールとして、県内各地域の公立ホールを支援するための事業等を実施しました。

アートキャラバンくまもと

「平成 28 年熊本地震」後、被災者や子どもたちの心の復興をアートで支援することを目的に、昨年度から継続事業として実施。東松島市を拠点に活動する男声コーラスグループ、ハラハラシンガーズによる「県庁ロビーコンサート」や、ワレリー・ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管弦楽団の演奏に女優の南果歩が朗読で共演した「ピーターと狼 for kids」など、益城町、御船町、県立劇場ほか県内各地で計 100 回実施しました。

(内訳)

〈ジャンル別〉		〈形式別〉	
音楽	40 回	鑑賞型公演	59 回
演劇	56 回	参加型	40 回
伝承芸能	2 回	鑑賞・参加両方	1 回
その他	2 回		
計	100 回	計	100 回

※当初から実施を予定していた児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験、アウトリーチ事業等を含みます。

3) 伝える (詳細は27ページ参照)

日本の伝統文化や邦楽を継承し発展させる事業を実施しました。

邦楽地域活性化事業

日本の伝統音楽を後世に伝えるため、(一財)地域創造と県立劇場が共催で取り組んだ事業で、山鹿、荒尾、天草市の3市での地域交流プログラム(小学校へのアウトリーチとホールでのコンサートまたはワークショップ)と、総括演奏会として若手邦楽演奏家9人によるガラコンサートを熊本市男女共同参画センターはあもにいで実施しました。

今後への展望・・・邦楽普及事業については、これまでにアウトリーチ、ワークショップ、コンサートなど様々なアプローチで実施し、邦楽の魅力を発信し続けたことで一定の成果を上げてきました。一方で、年間入場者数が減少傾向にあり、ホールへ足を運ぶ年齢層は高齢化しているなか、さらに層が薄い邦楽ファンをどう増やしていくかは県立劇場でも長年の課題です。これまで蓄積したノウハウを活かし、これからも邦楽普及に向けた取り組みを続けていきます。

II 芸術文化の普及拠点として取り組む事業

1) 楽しむ (詳細は28ページ参照)

専用ホールの特性を活かした質の高い舞台芸術公演に取り組みました。

ワレリー・ゲルギエフ指揮 マリインスキー歌劇場管弦楽団

ピアノ独奏に第11回チャイコフスキー国際コンクールで優勝したデニス・マツエフを迎えました。チャイコフスキー/弦楽セレナーデ、ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第4番、ベルリオーズ/幻想交響曲を演奏。圧巻の演奏で観客を楽しませました。またホワイエでは、これまでマリインスキー歌劇場管弦楽団熊本公演で多大なご支援をいただいた故チェスキーナ洋子氏を偲び、パネル展示などを行いました。

ワハハ本舗プロデュース「名もなく貧しくもなく美しくもなく」

聴覚障がいがある女優大橋ひろえと、ワハハ本舗所属で聴者の女優大窪みこえの二人芝居。手話通訳や字幕を使用せず、観客がハンディキャップをもって鑑賞する演劇公演を通して、障がいがあること、ないことを互いに体感し、多様性を認め合うきっかけとする実験舞台を上演しました。

今後への展望・・・今回聴覚障がい者の方の来場が多く、劇場スタッフの対応が不十分でした。今後の課題として、障がい者や高齢者等への対応を行う細やかな研修が必要です。また、バリアフリーや多言語化を事業に取り組むことで、多様性を尊重する社会づくりの一助とします。

2) 出会う (詳細は29ページ参照)

県立劇場以外のさまざまな場所で、多くの県民が文化芸術と出会うための事業を実施しました。

演奏家派遣アウトリーチ事業

地域の学校やホールに演奏家を派遣し、生の演奏を間近で聴いたり体験したりする機会を提供する事業です。29年度は、劇場協力アーティスト(山崎明、村田貴洋/ともにサクソフォン)によるアウトリーチを、御船町、あさぎり町、益城町の3町で実施しました。

今後への展望・・・小学校での評価はとても高く、児童たちも毎回良い反応を示しており、アンケートからも児童・先生ともに事業の効果の高さを感じました。ここ数年開催地が固定化されており、今後は他の地域への広がりも検討していきます。また、実施にあたりマニュアル化できる部分も多いため、開催地が自力で実施できるようノウハウを伝え、県内ホールスタッフの育成につなげるとともに、県立劇場職員の業務軽減を図ります。

(参考資料) 文化事業実績

①創造拠点事業

1)《創り育む》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
ピノキオ～または白雪姫の悲劇～					
8/18(金) 演劇ホール	ピノキオ ～または白雪姫 の悲劇～	KAAT神奈川芸術劇場制作。日本を代表する演出家 宮本亜門の子ども向けミュージカル作品。「ピノキオ」の物語をもとに作られており、白雪姫、きつね、猫、亀、魔王と次々におとぎ話のキャラクターが現れ、ファンタジックな世界を演出した。	[指定] S3,000 A2,000	822	—
6/11(日) 演劇リハーサル室	〈関連企画〉 ミュージカル ワークショップ	ピノキオに出演の岡田誠氏(魔王役)と池田有希子氏(白雪姫役)が講師を務め、小学1年生から6年生25人に身体をほぐすエクササイズや発声の指導を行った。	無料	—	25
第59回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る 新・オーケストラ					
8/27(日) コンサート ホール	ヤマカズが贈る 新・オーケストラ	横浜シンフォニエッタをゲストに、県内のオーケストラ団体や公募合唱団、小中高生による弦楽オーケストラ総勢450人が参加して実施。 横浜シンフォニエッタのステージでは本公演委嘱作品のマリンバとオーケストラのための協奏曲「祈り」を世界初演。そのほかオーケストラと日本舞踊の共演やこどもオーケストラの弦楽合奏披露、マーラー/交響曲第8番を演奏した。	[指定] S2,000 A1,000	1,733	—
5/21(日) ～8/26(土) 音楽リハーサル室ほか	芸文祭オーケストラ練習 (全8回)	ラヴェル/ダフニスとクロエ、マーラー/交響曲第8番の練習を行った。副指揮者は丸山貴大。	—	—	677
5/28(日) ～8/26(土) 大会議室ほか	芸文祭合唱団練習 (全9回)	九響合唱団指揮者の横田愉氏指導のもと、マーラー/交響曲第8番より第1部の合唱練習を行った。	—	—	917
6/24(日) ～8/26(土) 第3練習室ほか	芸文祭こども オーケストラ練習 (全8回)	県内の小学生～高校生で結成。練習曲は委嘱作品の森田花央里/くまモンといっしょ、アンダーソン/プリंक・プランク・プルック、チャイコフスキー/弦楽セレナーデの3曲。	—	—	658
8/6(日) 8/25(金) コンサート ホール	オーケストラ指 揮法(基礎編・ 応用編)	芸文祭オープニングステージの芸術監督・山田和樹による指揮講座。受講は指揮経験者に限る本格的な講座とし、6日と25日の前半はピアノ2台による講座。25日の後半は横浜シンフォニエッタをモデルにオーケストラによる講座を実施した。	基礎編 2,000 応用編 10,000 聴講500	69	28

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
オハイエくまもと協力事業					
H30. 2/25(日) 3/4(日) 第二大江学園	音楽ワーク ショップ	3月18日実施の「とっておきの音楽祭」 に向け音楽家の片岡祐介を招き、演奏指 導を行った。	—	—	143
H30. 3/18(日) 熊本市現代美 術館	第9回オハイエく まもととってお きの音楽祭	熊本市中心部の9会場で実施した中の、 熊本市現代美術館ホームギャラリーでの 13団体82人が参加した舞台進行全般に関 わった。音響機材や譜面台など、コン サートに必要な機材や備品の貸与、進行 表作成ならびに進行管理など、劇場が持 つノウハウと技術を生かした協力を行っ た。	無料	850	—
文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験 (芸術家派遣)＜コーディネーター実施方式＞」受託事業					
9/6(水) ～11/30 (木)	芦北町立吉尾小 学校ワーク ショップ (全3回)	全校児童9人(3,6年生不在)を対象に ワークショップを実施した。	—	—	27
10/20(金) ～H30.1/12 (金)	宇城市立小野部 田小学校ワーク ショップ (全9回)	低・中・高学年の3つのグループに分か れ、テーマに基づいてワークショップを 実施した。	—	—	251
10/27(金) ～H30.1/23 (火)	山鹿市立三岳小 学校ワーク ショップ (全4回)	3,4年生、5,6年生で実施。場面づくりを 行い、最後は1,2年生に活動の成果を披 露した。	—	—	162
12/1(金) ～H30.2/23 (金)	玉名市立玉水小 学校ワーク ショップ (全5回)	6年生で実施。天水町の調べ学習を題材 に創作活動を行った。	—	—	100
H30. 1/22(月)～ 2/6(火)	天草市立大楠小 学校ワーク ショップ (全6回)	3,4年生は国語の教材「モチモチの木」 の場面の創作を、5,6年生は「自分の力 を出す」を目標に、人前で話す活動を 行った。	—	—	93
県劇ゼミ					
8/5(土) 八代市厚生会 館	高校生のための 舞台技術講座	熊本県下の高校演劇に携わる高校生・教 職員を対象に実施。 県内で活動する舞台技術者を講師に迎 え、場面ごとの効果や手法について解説 を受けながら、プロの舞台上演をモデル に、照明や音響のオペレートを実践し た。	無料	—	68
8/9(水) 演劇ホール	行くぜ！劇場探 検隊2017 (全2回)	普段は関係者しか入ることができない奈 落、調光室、ピンルームなど、舞台の裏 側を演劇人扮した海賊に邪魔されなが ら、ナビゲーターの案内で体感しながら 見て回った。	無料	—	62
10/8(日) 荒尾総合文化 センター	フロントスタッ フ講座	講師にシアター・マネジメントプラン代 表の星乃もと子氏を迎え実施。公共ホ ール職員やホール専属のボランティアス タッフが参加してフロントスタッフの役 割について学んだ。	無料	—	26
10/28(土) 大会議室	基礎から学ぶ！ 著作権講座	骨董通り法律事務所から福井健策弁護 士を招いて行った。一般の受講者、ホ ール関係者、市・県職員、演奏者など が参加した。事例を交えたわかりやす い説明に受講生は興味深く聞き入っ ていた。	[自由] 500	—	53

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
通年	文化活動支援事業	県内で活動する文化団体等に、県立劇場での会場費を助成した。(7事業) 詳細は別表に記載。	主催者により異なる	7,478	—
民間共催事業					
11/4(土) コンサート ホール	第56回熊本県新人演奏会 主催：熊本県文化協会	オーディションにより選ばれた音楽を志す新人演奏家が出演する演奏会。今年は管弦打楽器部門5名、声楽部門1名、ピアノ部門6名の12名が出演した。	[自由] 一般 1,000	496	—
12/3(日) コンサート ホール	ベートーヴェン「第九」 主催：熊本県民第九の会、熊本県文化協会	指揮者は東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスの松井慶太。管弦楽は熊本交響楽団が担当。ベートーヴェン/序曲「コリオラン」、交響曲第9番を演奏。熊本県民第九の会250名が8月から練習を重ね、伸びやかな歌声をオーケストラの演奏と共に披露した。	[指定] 4,000 [自由] 3,000 学生 1,500	1,124	—
創造拠点事業《創り育む》 計				12,572	3,290

2) 《広げる》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
アートキャラバンくまもと					
通年	アートキャラバンくまもと	熊本地震後、平成28年度から実施する継続事業。東松島市を拠点に活動する男声コーラスグループ、ハラハラシンガーズによる県庁ロビーコンサートや、俳優小林顕作による絵本の読み聞かせ「絵本のじかんだよ!」、ワレリー・ゲルギエフ指揮、マリンスキー歌劇場管弦楽団の演奏に女優の南果歩が朗読で共演した「ピーターと狼for kids」、益城子ども劇団ましきっずプレイヤーズ向けのワークショップなど、益城町、御船町、南阿蘇村ほか県内各地で実施した。	無料	2,558	23
4/16(日) 演劇ホール	くまモン音楽祭	ゲストにコロッケ、大江千里らを迎え、NHK熊本児童合唱団、益城町立広安西小学校・益城中学校吹奏楽部員らが出演した。また、アメリカの合唱団One Voice Kidsが来日し「くまモンソング」の贈呈式と演奏で会場を盛り上げた。	無料	868	—
5/11(木) コンサート ホール	宮崎国際音楽祭管弦楽団	テレビ熊本とテレビ宮崎、宮崎県立芸術劇場と連携し実施。宮崎国際音楽祭管弦楽団は国内トップクラスの奏者で特別編成されたオーケストラで、その演奏水準は非常に高く、「昨年の地震を思い出し、重なり、心にずっと響きました」等の感想が寄せられた。	無料	1,492	—
11/26(日) 益城町文化会館	想いでの詩コンサート	日本テレビ小鳩文化事業団および益城町文化会館の主催、県立劇場の共催事業。童謡や唱歌等、日本の歌をオペラ歌手による歌のほか、益城中学校吹奏楽部も共演した。	無料	340	—

期日 会場	事業名	概要	入場料 (円)	入場者 (人)	参加者 (人)
10/9(月・祝)～10/15(日) 八千代座ほか	東京キャラバン in熊本	東京都、アーツカウンシル東京、熊本県、熊本市、熊本市現代美術館との共同事業。振付家でダンサーの近藤良平ほか熊本めぐり音楽隊が9～13日に県内各所でワークショップを行い、15日に熊本城二の丸広場(その後雨天によりびぶれず広場に変更)でパフォーマンスを行った。	無料	2,910	15
H30. 3/29(木)～ 3/30(金) 菊陽町図書館 ホールほか	スーパーキッズ・オーケストラ	世界的指揮者佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラが2016年、2017年に続き3年連続で熊本を訪問。被災した熊本の方々の心の復興を願い、菊陽町図書館ホール(2回公演)と県庁ロビーでコンサートを開催した。	無料	1,662	—
ネットワーク事業					
9/9(土) 水俣市文化会館	三遊亭好楽落語会	テレビ番組でも人気の落語家の高座ということもあり、多くの観客が訪れた。前座の前には三遊亭好吉による簡単な落語解説も行われ、子どもたちも落語の面白さをつかむことができ、会場は終始大きな笑い声に包まれた。	[指定] 1,000	638	—
H30. 3/1(木) 美里町文化交流センターひびき	林家たい平独演会	人気落語家、林家たい平の独演会。前座は弟子の林家あずみが三味線漫談を披露。林家たい平は前半・後半と2演目話を話した。会場は終始、笑いで盛り上がった。	[指定] 一般 1,500 中学生以下1,000	323	—
H30. 3/4(日) 天草市牛深総合センター	狂言を楽しむ会 天草公演	福岡を拠点に活動している狂言師、野村万禄と萬狂言のメンバーによる狂言会。初心者でも楽しめるように、演目の前に、狂言の楽しみ方やあらすじが紹介された。また演目間に、狂言の笑い方や泣き方を真似る体験コーナーもあり、観客は楽しんでいた。	[自由] 一般 1,000 高校生以下無料	174	—
公立文化ホール支援事業					
9/14(金), 15(土) 大会議室	九州地域アートマネジメント研修会	研修は「地方公共ホールにおいて今後取組が求められる社会包摂事業について～実践例、成果と課題について語る」、15日は「熊本県重要無形文化財「清和文楽」人形芝居について～ホールと地域伝承芸能団体の連携、その実践例と考察」と題し実施。熊本地震の復旧状況報告も併せて行った。	—	—	127
通年	震災アーカイブ記録集	熊本県公立文化施設協議会で作成した「平成28年熊本地震記録誌」の印刷・製本費の一部を負担した。	—	—	—
創造拠点事業《広げる》 計				10,965	165

3) 《伝える》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
8/9(水)～ H30. 2/3(日) 熊本市男女共 同参画セン ターはあもに い ほか	邦楽地域活性化 事業	(一財)地域創造との共催で実施。山 鹿、荒尾、天草の3市で地域交流プログ ラムを実施。総括演奏会として「邦楽ガ ラコンサート」を実施した。	ガラコン 〔自由〕 1,000	1,050	543
12/22(金), 23(土・祝) 清和文楽館 H30. 2/4(日) 宇土市民会館	地域伝統芸能育 成事業	淡路人形座から人形遣いほか14名が来熊 し、清和文楽人形保存会メンバーに、人 形遣いと演奏指導をおこなった。また、 宇土市民会館では「第二回地域伝統芸能 祭」で「雪おんな」を上演。清和文楽の 公演機会を設けた。	宇土公演 無料	385	29
通年	伝統芸能発信事 業	県内における伝統文化・伝承芸能活動の 調査事業として、館長が現地へ出向き各 地の現状と課題を取材。天草地方、人 吉・球磨地方、玉名・鹿本地方で実施し た。	—	—	31
通年	創造拠点新規企 画事業	年間パンフレットの印刷や平成30年度芸 文祭オープニングステージほか、次年度 以降の創造拠点事業の調査および打ち合 わせ等を行った。	—	—	—
創造拠点事業《伝える》 計				1,435	603

②普及拠点事業

1) 《楽しむ》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
5/17(水) コンサート ホール	フィルハーモニア管弦楽団	鶴屋百貨店創業65周年と県立劇場開館35周年を記念し、初めて共同で取り組んだ事業。現代クラシック界で最も注目される指揮者のひとりであるエサ=ベッカ・サロネンと英国の一流オーケストラ・フィルハーモニア管弦楽団を九州で唯一招いた。チケットは全席完売。	[指定] SS12,000 S10,000 A8,000 B6,000	1,754	—
9/7(木) コンサート ホール	KUMAMOTO JAZZ 2017	日本を代表するジャズピアニストである小曽根真率いるトリオと、卓越したギターテクニックを持つパット・マルティネ率いるトリオが出演。県内だけでなく県外からも多くのファンが訪れ、両アーティストの演奏を楽しんだ。	[指定] SS5,000 S4,000 A3,000 B2,000	1,089	—
12/1(金) コンサート ホール	マリンスキー歌劇場管弦楽団	フレリー・ゲルギエフ指揮。ピアノ独奏にデニス・マツエフを迎えラフマニノフ/ピアノ協奏曲第4番を披露。メインプログラムのベルリオーズ/幻想交響曲は芳醇で多彩な音色を紡ぎ出し、アンコール曲のストラヴィンスキー/火の鳥の圧巻の演奏に、観客は酔いしれた。	[指定] S10,000 A8,000 B6,000	1,569	—
H30. 1/27(土) 演劇ホール特 設ステージ	ワハハ本舗「名もなく貧しくもなく美しくもなく」	聾者と、聴者の女優による2人芝居。手話と言葉での上演は、聾者・聴者双方の観客が何を話しているのか推理しながら観劇するという、「お客さまにハンデをもってもらう」前代未聞の実験コメディーとして実施した。	[自由] 2,000	152	—
民間共催事業					
4/14(金) コンサート ホール	地震1年後に熊本の「復活」を祈るコンサート 主催：くまもと音楽復興支援100人委員会ほか	熊本地震から1年となる節目にマーラーの大曲「復活」を演奏しようとして実施。熊本と縁が深い指揮者・山下一史のほか、九州交響楽団・九響合唱団を中心とし全国各地から演奏家が集まった。終楽章のあとは奏者も観客も起立して黙禱。やがて会場は大きな拍手に包まれた。	[指定] S5,000 A4,000 B3,000 C2,000	1,689	—
9/9(土) 演劇ホール	2017夏季狂言の会 主催：熊本「万作・萬斎の会」	毎年、狂言師の野村万作、萬斎を迎えて開催する狂言公演。今回は、熊本県出身の作家である石牟礼道子原作の新作狂言「なごりが原」の初演を行い、野村萬斎が演出とシテを務めた。祇園祭の祭神・櫛稲田姫の舞では能面を被り優美な舞を披露した。	[指定] S8,640 A6,480 B5,400 [自由] 3,000	1,050	—
11/13(月) 演劇ホール	松竹大歌舞伎(2回公演) 主催：熊日	歌舞伎三大名作のひとつと言われる「義経千本桜」的一幕「すし屋」が披露され、座頭を務める中村獅童は人間味あふれる「いがみの権太」を演じた。その他、狂言を基にした「釣女」も上演され、コミカルなやり取りに会場が笑いに包まれた。	[指定] 特S10,000 S8,000 A5,000	1,764	—
普及拠点事業《楽しむ》 計				9,067	0

2) 《出会う》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
6/22 (木) 演劇ホール	姜尚中×玄侑宗 久対談・講演会 「こころの好縁 会」	第1部は「火山列島を生きる」をテーマにした玄侑宗久氏による講演、第2部は姜館長が参加して、「震災を生きる」をテーマにした対談を行った。	無料	891	—
8/14 (月) コンサート ホールホワイ エほか	県劇盆踊り	雨天のため屋内に会場を移し、檣を組んで開催。ゲストに牛深ハイヤ保存会を招き、ハイヤ踊りや炭坑節などのほか、食べ物コーナーやゲームコーナーも用意し、姜館長はじめ職員一同でもてなし、地域住民と交流を行った。	無料	850	—
演奏家派遣アウトリーチ事業					
7/5 (水) ～7/7(金), 9/6 (水) 御船町内小学 校6校	御船町アウト リーチ	平成29・30年度登録アーティスト(サクソフォン/山崎明、村田貴洋)によるアウトリーチ。楽器の特徴や音が出る仕組みをわかりやすい言葉で説明するなど、演奏家の工夫が見られた。児童たちは演奏を間近で聴き、楽器に対する興味を持つことができた。また、曲を聴いて情景などのイメージを膨らませ、言葉で表現することで、普段とは違う音楽の楽しみ方を発見できた。	—	—	229
10/18 (水) ～20 (金) あさぎり町内 小学校5校	あさぎり町アウト リーチ	登録アーティスト2名によるアウトリーチ。山崎明は、パネルを使い曲のイメージを想像させたり、音楽に合わせて身体を動かしたりと、児童たちは終始楽しみながら鑑賞していた。村田貴洋は、付箋を使いリードが振動する様子を解りやすく説明。アーティストが近くまで寄り、児童たちは興味深く振動の様子を観察していた。	—	—	223
H30. 2/7 (水)～ 2/26(月) 益城町内小学 校5校	益城町アウト リーチ	登録アーティスト2名によるアウトリーチ。山崎明は寝転んで曲のイメージを自由に想像させたり、音楽に合わせて踊ったりと児童と一緒に音楽を楽しむプログラムを実施。想像した風景を発表する場面ではたくさんの児童が手を挙げて発表した。村田貴洋はわかりやすいよう付箋を使ってリードが振動する様子を説明した。また、人の笑い声のような音や琴のような音を出してみせ、児童にサクソフォンの魅力を伝えていた。	—	—	373
通年	ぴっころシート 事業	平成19年度から県内企業からの協賛を得て、児童養護施設の子どもたち及び里親家族に、公演招待制度を実施。劇場主催の2公演に、10施設、3家族計143人を招待した。	—	各事業に 計上	—
通年	普及拠点新規企 画事業	「くまモン&キネコ映画祭」や「トーン キュンストラ管弦楽団」公演に係る印刷・広報のほか、次年度以降の普及拠点事業の調査および打ち合わせ等を行った。	—	—	—
普及拠点事業《出会う》 計				1,741	825

(別表)

文化活動支援事業一覧

期日	会場	公演名	公演概要	入場者 (人)
4/29 (土)	コンサートホール	第34回熊本市民吹奏楽団 定期演奏会	今年より熊本県吹奏楽連盟理事に就任した北村直也を指揮者に迎え、団員70名による演奏を披露した。コンクール課題曲、小編成作品、ポップス曲など、小学生から高齢者まで楽しめるプログラム構成だった。	753
5/6 (土)	演劇ホール	珠寿恵会四十五周年記念日本舞踊公演	昭和45年に発足された「珠寿恵会」の45周年の記念公演。新曲「浦島」「藤娘」など古典舞踊を中心とした15演目のプログラムで構成。出演者18名が美しい舞を披露し、客席を楽しませた。	740
5/14 (日)	コンサートホール	第103回熊本交響楽団定期演奏会	熊本地震の影響で中止になった第101回公演に出演予定だった松井慶太氏の指揮で団員98名が演奏を行った。 A. アルチュニアン／トランペット協奏曲では、ソリストを務めたNHK交響楽団首席トランペット奏者である菊本和昭氏の華麗な演奏で、客席を大いに盛り上げた。	884
7/17 (月・祝)	演劇ホール	熊本子どもミュージカル5周年記念公演 ミュージカル「ピエロ人形の詩」	小学校1年生から高校3年生までの22名のメンバーが出演。 今回の「ピエロ人形の詩」は、全国24カ所にある児童劇団「大きな夢」の代表作品。親を亡くした少女ナナがピエロ人形と出会い成長していく物語を上演した。	960
11/3 (金・祝)	演劇ホール	NHK熊本児童合唱団定期演奏会 (2回公演)	9月に開催予定だったが、台風18号の影響により延期開催。児童合唱組曲「ごめんねメリー」では戦時中に殺処分された動物たちを通して、戦争の悲惨さ、平和の大切さについて団員たちが心を込めて歌い上げた。後半のミュージカル「ポカホンタス」では本格的なミュージカルに挑戦した。	1,675
11/18 (土)	コンサートホール	熊本大学マンドリンクラブ 第60回定期演奏会	今回は60回を記念して、OB49名との合同ステージを行い、アメデオ・アマディ／海の組曲などの楽曲を披露した。ポピュラーステージでは聴き馴染みのあるポピュラーソング6曲を演奏。マンドリン演奏の軽やかな音色と部員によるダンスで観客を楽しませた。	427
11/26 (日)	コンサートホール	熊本バレエ劇場2017 くるみ割り人形 (2回公演)	1975年に初演し、今年で37回目を迎える公演。東京シティ・バレエ団のホワンカイほか6名のゲストを迎え、総勢88名の出演者が華麗な舞を披露した。オーケストラ演奏は熊本ユースシンフォニーオーケストラ、合唱はNHK熊本児童合唱団が担当。	2,039
			計	7,478